

令和6年10月29日（火）

第Ⅰ学年 普通科 37 名

場 所 県立小林高等学校 体育館

指導者 福 元 哲 也

1 単元名 球技(ネット型:バレーボール)

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技能の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。

(知識及び技能)

- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに喜びを味わうことができる運動である。

バレーボールは、ボールを媒介として、集団対集団で攻防を展開する中で、得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる。また、ラリーを続けることができた時は、得失点に関わらず楽しさを感じることができる。サービスやパス、スパイク等の個人技能とチームによる作戦や練習、チームワークなどの集団技能から成る運動であり、相手の攻撃に瞬時に対応できる敏捷性や瞬発性、調整力などの体力を高めることができる。

4 生徒の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

バレーボール部に所属している生徒、経験者については3名であるが、運動部に所属している生徒は37名いるため、授業に対して積極的に取り組む生徒は多い。しかし、仲間と協力しながら取り組む事が苦手な生徒の姿も見られる。事前アンケートによると、生徒の多くはバレーボールに対する興味、関心が高く、技能や作戦についても理解している生徒も多い。

バレー経験者		ルールの把握		バレーボールに自信がある	
ある	3人	全て知っている	2人	自信がある	4人
ない	34人	ある程度知っている	28人	まあまあ自信がある	14人
		ほとんど知らない	7人	あまり自信がない	13人
		全く知らない	0人	全く自信が無い	4人

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、中学3年次で全員がバレーボールの授業を履修している。そのため基本的な知識や技術を習得できている生徒は多くいるが、仲間と連携した動きが苦手な生徒もいる。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、技能習得の個人差を踏まえながら、得意な生徒が中心となり、苦手な生徒に対して積極的に関わりながら課題解決に向けて練習方法等を考案し、取り組んでいる。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、球技に自主的に取り組むとともに、体力や技能、一人一人の違いを認めながら、学習課題の解決に向けて仲間と互いに助け合い教え合おうとすることが出来るようにすることが課題である。

(3) 体力の状況

	男子				
段階	A	B	C	D	E
人数	15	4	2	0	0
%	72%	19%	9%	0%	0%
	女子				
段階	A	B	C	D	E
人数	15	1	0	0	0
%	93%	7%	0%	0%	0%

今年度の新体力テストのバレーボール選択生の総合評価の割合は、A評価の生徒が82%、B段階の生徒が13%、C段階の生徒が5%、D段階の生徒が0%、E段階の生徒が0%という結果であった。新体力テストの結果としては全体的に体力が高く、運動に苦手意識を持っている生徒が少ない。

5 学習を進めるにあたって

本単元では、生徒の実態をふまえ、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しながらゲームを展開し、課題解決する能力を育成する内容となっている。学び合いや教え合いでの経験を通して、運動の楽しさを味わいながら、チームや自己の課題を発見し、課題解決をしていくことを学ぶには最適な領域だと考える。単元の前半は、アンケートをとり「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てるための技術の名称や行い方の学び直しを行った上で、個人技能が高まるように指導していきたい。また、単元の後半はチームで勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことに重視し、チームの課題を解決するためにチームでの練習方法や話し合いを混ぜながら授業を展開していきたい。また、毎時間の振り返りとして、デジタル学習カードを積極的に活用し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」を高める工夫を行うとともに、チーム編成やルールの工夫を行うことで誰もが楽しめる共生の視点についての指導も行っていきたい。

6 単元の評価規準（ ・中学第3学年 ○高等学校入学年次 ◎共通 ）

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
内容のまとめりの評価規準	【知識】 ◎球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。 ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。 ・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	【技能】 ◎サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 ・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ◎攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ○ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ○ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。	◎選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ○自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ◎選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。 ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ◎体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ○球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	主体的に取り組む態度 ○球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ○作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ◎一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。
単元の評価規準	【知識】 ①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。	【技能】 ①サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 ②攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ③ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ④ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。	①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ③選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ⑤球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。

7 単元の指導と評価の計画（16時間）

時間		1	2	3	4	5	6	7
指導内容	知		①					
	技			①		②		③
	思・判・表			①			②	③
	学・人	①	③		②			
学習過程	0分	集合、あいさつ、健康観察、本時のめあての確認						
		健康・安全の知識の確認	準備運動①（柔軟性、体力向上）					
			学び直し ・トス ・サーブ ・スパイク 知① 技①	部分練習（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）		課題解決のためのゲーム ・サーブ ・ネットの高さを下げる 技②	グループワーク チームの課題にあった準備運動や練習方法を調べ、話し合う） 思③	
				チーム編成				
	準備運動の確認学①	技能分析のためのゲーム（ルールの工夫） ・サーブなし ・ネットの高さを下げる	思考ツール説明・発表					
	45分	簡易ゲーム	個人で作成した思考ツールを発表する学②	課題解決のためのゲーム（ルールの工夫）	・サーブ ・ネットの高さを下げる	技②	チームの課題に取り組ませる 技③	
								思考ツール説明・作成【Yチャート】（個人で作成）
		50分	簡易ゲーム	個人で作成した思考ツールを発表する学②	課題解決のためのゲーム（ルールの工夫）	・サーブ ・ネットの高さを下げる	技②	チームの課題に取り組ませる 技③
	評価の機会	知		①				
技								
思・判・表				①			②	③
学								②
準備物		バレーボールネット、支柱、アンテナ、バレーボール、スマイルバレーボール(ソフト)						
カリマネ	体育理論				スポーツにおける技術と戦術			
	保健	運動と健康						
	他教科							

8	9	10	11 (本時)	12	13	14	15	16
	②							
					④			
			④	⑤				
集合、あいさつ、健康観察、本時のめあての確認								
準備運動②（柔軟性、体力向上、技能向上）								
部分練習(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)			チーム練習	グループワーク 「する、みる、知る、支える」の視点で何ができるかをチームで話し合う。	部分練習(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)			
グループワーク チームの課題にあった準備運動や練習方法を調べ、話し合う	チーム練習 チームで選択した練習方法を取り組ませる。		チームの課題に応じた練習や教具を使用する		チーム練習			
			話し合い リーグ戦に向けた話し合い 思④		技④			
	ゲーム 課題解決、課題発見のためのゲーム		ゲーム 思④		ゲーム リーグ戦			
チーム練習					ゲーム リーグ戦			
チームで選択した練習方法を取り組ませる	思考ツール作成【ペンタゴン】 (チームで作成) チームで試合のルールや教具の工夫などのポイントを記入させる。 知②		チーム振り返り・チームで話し合う。(デジタル学習カード)	運営、審判など生徒にさせる。 思⑤				
	②							総括的な評価
②		③			①	④		
			④	⑤				
				③			①	
得点板、笛、デジタイマー								
			スポーツにおける技術と戦術	豊かなスポーツライフが広がる未来の社会				

8 本時の学習（11／16時間）

（1）本時の目標

- 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）本時の評価項目

- 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。

（思考・判断・表現）

9 学習指導過程

段階	時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価の項目 （評価方法） 【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される生徒への手立て
はじめ	10分	1 用具や場の準備 2 集合、整列、挨拶 3 健康観察 4 準備運動	・体調確認を行う。 ・ケガ防止に繋がるように行わせる。		
なか	35分	5 本時のねらいの確認 体力や技能の程度等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けよう。			
		6 チーム練習 ・チームの課題に応じた練習や教具を使用しながら練習する。 7 リーグ戦に向けた話し合い ・各チームの課題に応じて、ルールや教具、声かけなど、チームで工夫する事を話し合う。 8 ゲーム ・ゲーム(5分×2) 9 チーム振り返り ・工夫してチーム全員が楽しめたか、理由も含めてチームで話し合う。 (デジタル学習カード)	・各チームで試合に向けた練習を考案または選択して行う。 ・体力や技能の違いなどに配慮しながら、チームメイト全員が活動できるように取り組ませる。	○体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 【Aの例】 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための具体的な活動の方法や修正の仕方を見付けている。	○体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方などについて、具体的な例を示しながら、活動の方法や修正の仕方を考えさせる。
まとめ	5分	10 本時のまとめ 11 次時の確認 12 整理運動、片付け	・本時のねらいや本時の評価内容への振り返りを行い。自己評価への指示をする。 ・次時の内容と狙いの確認を伝え、意欲向上を図る。		

指導事項配置図（中学3年生－高校1年生）

		第3学年																		第1学年															
指導事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
知識	① 技術や戦術、作戦の名称			○	○																○														
	② 戦術や作戦に応じて、技能を発揮																											●							
	関連して高まる体力								●																										
	自己観察や他者観察の方法										●																								
技能	① サービスでは、ボールをねらった場所に打つ			○																	○														
	ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返す					●																													
	② 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げる			○																			○												
	ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりする													●																					
	腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込む														●																				
	③ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりする																										●								
	④ ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーする																															●			
	連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動く										●																								
思考力、判断力、表現力等	① 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して伝える				○																○														
	② 技術的な課題、作戦等の課題、練習方法を伝える																									●									
	③ 必要な準備運動や補助運動を選ぶ								○																		○								
	体調や環境に応じて練習方法等を振り返る		●																																
	よりよいマナー等について自己の活動を振り返る							●																											
	分担した役割について自己の活動を振り返る															●																			
	話し合い等で合意形成する関わりを見付け仲間に伝える									●																									
	④ 体力や技能の程度等に配慮し楽しみ方を見付ける											○																			○				
	⑤ 自己に適した「する、みる、支える、知る」を見付ける																															●			
学びに向かう力、人間性等	① 自主的に取り組もうとする																				●														
	フェアなプレイを大切にしようとする							●																											
	② 話し合いに貢献しようとする																						●												
	③ 個々の違いに応じた課題等を大切にしようとする										○											○													
	互いに助け合い教え合おうとする																															●			
	健康・安全を確保しようとする	●																																	

●：重点指導機会 ○：複数回での指導機会 *：評価対象とせず指導する機会

<指導事項の表記について>

- ・数字は対象授業における指導事項とする
- ・それ以外（網掛け）は中学校第3学年のみで扱った内容とする

指導事項配置図（高校2年生－3年生）

		第2学年															第3学年															
指導事項		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
知識	① 技術や戦術、作戦の名称、合理的な練習方法		○															○														
	② 技能に関連させながら体力を高める					●																										
	③ 課題解決の方法									●																						
	④ 競技会の仕方																							●								
技能	① サービスでは、ボールに変化をつけて打つ			●																												
	② ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返す																			●												
	③ ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりする																			●												
	④ 変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブする	他単元（ ソフトテニス・バドミントン ）で指導する。																														
	⑤ 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げる						●																									
	⑥ 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりする											●																				
	⑦ ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込む																				●											
	⑧ チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりする																						○									
	⑨ ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをする																									●						
	⑩ 相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動する																										●					
	⑪ 仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをする																												●			
思考力、判断力、表現力等	① チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘する			●																												
	② 課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見する									●																						
	③ チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てる																				●											
	④ チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案する	他単元（ サッカー・ソフトボール ）で指導する。																														
	⑤ チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案する												●																			
	⑥ 状況に応じてチームや自己の役割を提案する																						●									
	⑦ 話合いで合意形成するための調整の仕方を見付ける	他単元（ バasketボール ）で指導する。																														
	⑧ 違いを超えて仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付ける																								*		●					
	⑨ 生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける																*													●		
学びに向かう力、人間性等	① 主体的に取り組もうとする		○															○														
	② フェアなプレイを大切にしようとする						●																									
	③ 作戦などを話合いで、合意形成に貢献しようとする											●																				
	④ 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする													○													○					
	⑤ 仲間の課題を指摘するなど、助け合い高め合おうとする										○										○											
	⑥ 危険の予測をしながら、健康・安全を確保する	●																														

●：重点指導機会 ○：複数回での指導機会 *：評価対象とせず指導する機会